
IS - 謎のイタリア代表候補生 -

ゴードン

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

IS - 謎のイタリア代表候補生 -

【Nコード】

N0239BA

【作者名】

ゴードン

【あらすじ】

インフィニット・ストライス。それは元々は宇宙開発のための兵器だった。そして、宇宙人たちはそれを敵視し使者を地球に送りこんでいたら……？ 駄作者ゴードンの年越し小説です！ 楽しんで読んでくれたら嬉しいです。

U n i v e r s e : 1 / 0 1 「亞」(前書き)

y e s ! やつとISの小説が書けるぜ!

バカテス中心に書いてた謎作者ゴードンの年越しの為の新作です!

楽しんで読んでもらえたら嬉しいです!

「全員揃ってますねー。それじゃあS H Rはじめますよー」
ショートホームルーム

黒板の前でにつこり微笑みながら喋る女性。この人は俺が通うことになった学校のクラスの副担任の先生だ。名前はたしか……山田真耶だっけ？

身長は成人女性にしては低く、生徒だと言われても違和感がないほどだった。服もサイズが合っていないのかだぼつとしていて、ますます本人が小さく見える。まあそんな事言うのは失礼だから黙っておくけど。

ちなみに、俺の横に座っている男子は先生の姿を見て『なんかあの先生からかなりの不自然さを感じるんだけど、そう思っているのは俺だけなのか？』みたいな感じで動揺していた。

「それでは皆さん、一年間よろしく願いますね」

先生がそんな事を言っても返事をする生徒は一人もいない。なっ……、なんなんだ、この変な緊張感は……。

「じゃ、じゃあ自己紹介をお願いしますっ。えっと、出席番号順で……」

何も反応がないことで自分が嫌われているとでも思ったのだろうか。少し涙目になりながら自己紹介開始の宣言をする。

少し先生が可哀想になってきたので反応しようかと思ったがそん

な余裕はない。なぜかと聞かれたらこれしか理由はない。それは俺と隣にいる彼以外が全員女子だからだ。

「（覚悟はしていたけどこれは凄くキツイ……）」

自意識過剰とか死神の幻覚とか神様の罠とかそんなものではない。背中にズキズキとクラスメートたちの視線が刺さる。

大体、席も悪いよね。なんで最前列の真ん中近くなんだ。普通は名前順か何かだろう。

俺は助けを求めるように隣の少年をちらりと見る。その少年も俺の方を見ていて目でパチパチと何かの合図をしているようだった。恐らく助けを彼も求めたのだろう。だけどごめん、俺にそんな力はない。

首を横に小さく振って拒否の合図を送ると、ガーンというような効果音が似合う感じで俯き、今度は窓側に居たポニーテールの少女の方を見ている。もしかして、知り合いなのかな？

「くん。ムーン＝オーディンくんっ」

「はっ、はい!？」

いきなり前方から大声で名前を呼ばれたため思わず声が裏返ってしまった。さらに追い打ちをかけるように、くすくすと周りから笑い声が聞こえてきて、さらに慌てる。

「あっ、あの、お、大声出しちゃってごめenneっ。お、怒ってる？怒ってるかな？ゴメンね、ゴメンね！でもね、あのね、自己

紹介、『あ』から始まって今『お』のオーデインくんなんだよねっ。
だからね、ご、ゴメンね？ 自己紹介してくれるかな？ だ、ダメ
かな？」

正直テンパってて先生の言葉は耳に入らなかったが、自己紹介を
してくれということだろう。あと、何故か先生はぺこぺこ頭を下
げている。……俺ってそんなに怖そうな顔してるのかな？ あ、何
か目から汗が……。

「すみません先生。喜んで自己紹介をさせてもらいます。なので少
し落ち着いて下さい」

「ほ、本当？ 本当ですか？ 本当ですね！？ や、約束ですよ。
絶対ですよ！」

「はい、指切りをしましょう。ジャパニーズは約束の時これをする
と師が言っていました」

「はっ、はい！ 指切拳万、嘘ついたら針千本吞います。指切った
っ」

改めて思うがこの人は本当に俺の年上なんだろうか。いや、本当
はどう考えても俺の方が年上だが まあ、この話はまた今度しま
しょうか。

というか、俺が自己紹介の内容を考えるための口実をここまで簡
単に信じるとは……。この人、近い将来に絶対詐欺に遭うぞ。

まあ、ここまで言ったのだから男たるもの引くわけにもいかない
な。というか、ここで溝を作ってしまったら二度とこの環境に馴染

めなさそうだ。

「（うぁ……）」

立って後ろを向いただけで全ての視線が俺に向けられる。隣にいた少年は物凄い同情に満ちた目でこちらを見てくる。

同情するなら助けてくれよ。

そんな事を心の中で思うが、先に見捨てたのは俺だったな……。仕方ない、ここは無難なところで名前、出身地、好きな食べ物を言うだろうか。

「えっと……、ムーン〃オーデインです。一応イタリアの代表候補生です。まあ気にせず気さくに話しかけてくれると嬉しいですね。出身地はローマ、好きな食べ物はパスタ全般です。よろしくお願いします」

一応、礼儀ということで頭をペコリと下げる。すると周りからパチパチ、と拍手の音が聞こえる。どうやらファーストコンタクトは上手くいったようだ。俺から次の人達へ自己紹介が回った。

それにしても、ISねえ……。

アイエス

IS。正式名称『インフィニット・ストライズ』。それは宇宙空間での活動を想定して一人の科学者の好奇心により作られた代物だ。

しかし、この機械は全てのスペックが高すぎた。結果、地球人のこれに対する認識は『兵器』へと変わり、これまでの兵器の現状をひっくり返すものになった。しかしそれは各国の思惑から『スポーツ』へと落ち着いた。所謂、飛行パワードスーツだ。

しかし、この『IS』には致命的な欠陥がある。それはこの機械が女性にしか扱うことが出来ないことだ。これによって世界は一気に女性の地位が高くなった。だが最近、そんな現実をひっくり返すビックニュースがあった。

あの『IS』を男が発動出来たということだ。しかも二人もだ。

一人は日本人の織斑一夏。一人はイタリア出身のムーニーオーデイン。発動が出来てしまったこの二人は必然的に世界政府からの命令で操縦者養成学校のIS学園に入れられることになった。日本は二人が外国から保護するためという名目で入れたが、本当は監視、研究というのが本来の目的だ。

だが、イタリア出身のムーニーオーデインの情報が全くなかった。母国であるはずのイタリアにさえ、だ。それもそのはず、なぜなら彼はイタリア出身どころか、地球出身ですらない。

さて、『IS』が生み出された本来の目的は宇宙開発のためだ。しかもそんな代物を宇宙人がいたとして見逃すか？ そんなはずはない。そんなものは宇宙の敵だ。

ムーニーオーデインは簡単に言えば宇宙からの監視者なのだ。『IS』のデータを収集、送信をするための。

正確に言えば彗星第五二星雲出身、ムーンオーディン。宇宙人研究者たちの頭脳を結集させて完成させた男でも使える新世代IS、「グラビティ・グラコニス」を率いてやってきた彼は

それにしても、父さんも凄いよな。イタリア人全員の記憶を改ざんしちゃうんだから。まあ、俺は監視とかISとかぶっちゃけどうでもいいんだよね。地球に観光に来た気分だよ。地球は本当に綺麗だ。空気はおいしいし、土地は綺麗だし、飯も美味しいし。

まあ、宇宙の人工衛星の残骸も掃除しろと言いたいかな。星が見えにくくなるし。

「……………」

で、人工衛星うんぬんで気分が悪いから見るからに俺に助けるといふ目線を送ってくる隣の男は無視しておこう。何でか俺がボーッとしてる間に彼の自己紹介が始まったが見事に滑ったようだ。

俺の目の前に半泣きの山田先生。えっと……、織原くんだけ（織斑です）？ たしかそんな名前の彼に期待の視線を送る二人の女子。

うん、カオスだ。織原くん（織斑です）は一回深呼吸をして、こ
う言った。

「以上です」

ギャグアニメとかでよく聞く音が耳に入る。どうやら何人かの女子がずっこけたらしい。そんな時、教室の扉がガララッ、と開いて黒いスーツにタイトスカートの女性が入ってきた。生徒には見えな
いから先生だろうか？

その人は自身の存在に気付いていない織原くん（織斑です）に近づいて 彼の頭に出席簿を振り下ろした。

U n i v e r s e : 1 / 0 1 「亞」(後書き)

《次回予告らしきもの》

「ねえ織原くん」

「俺は織斑だつー!」

「ま……まさか……、出席簿があれほどの威力を……!?!」

「あれが千冬姉の必殺技、ブラックアタックだ　ぐぶあ!?!」

「席につけ馬鹿者」

「次回、とくに題名はなし!　ISと宇宙人が交差する時、物語は始まる……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0239ba/>

IS - 謎のイタリア代表候補生 -

2011年12月31日16時59分発行